

経営比較分析表（平成29年度決算）

熊本県阿蘇市 阿蘇医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	学術・研究機関出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	14	-	ド透訓ガ	救臨感へ災輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
26,773	11,336	第2種該当	10:1	

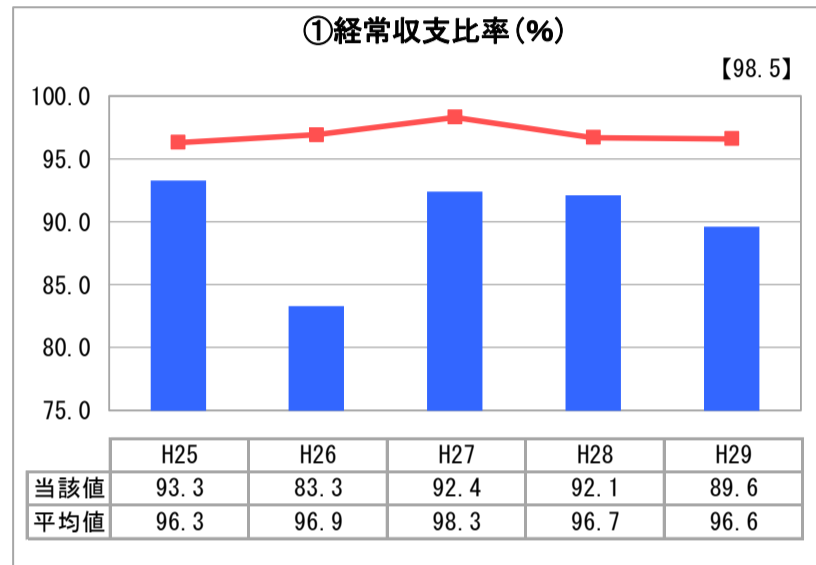
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

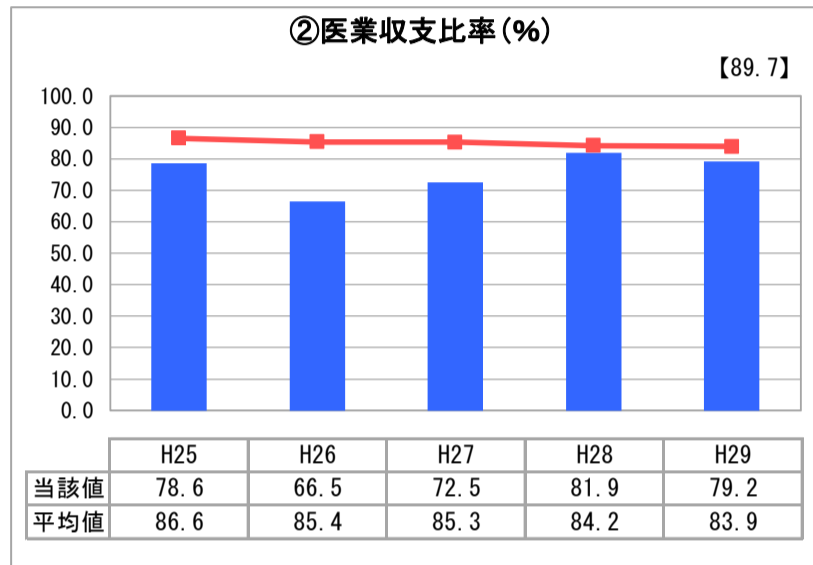
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
120	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	124
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
120	-	120

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	平成29年度全国平均

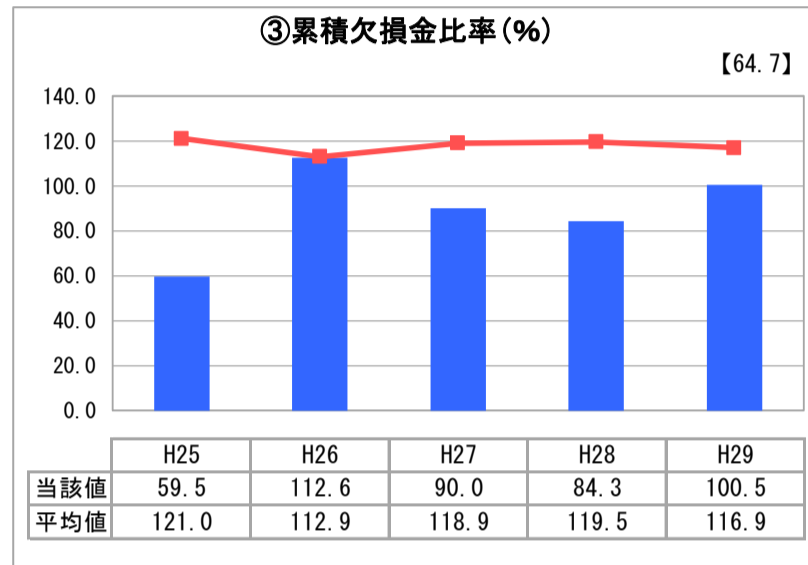
1. 経営の健全性・効率性



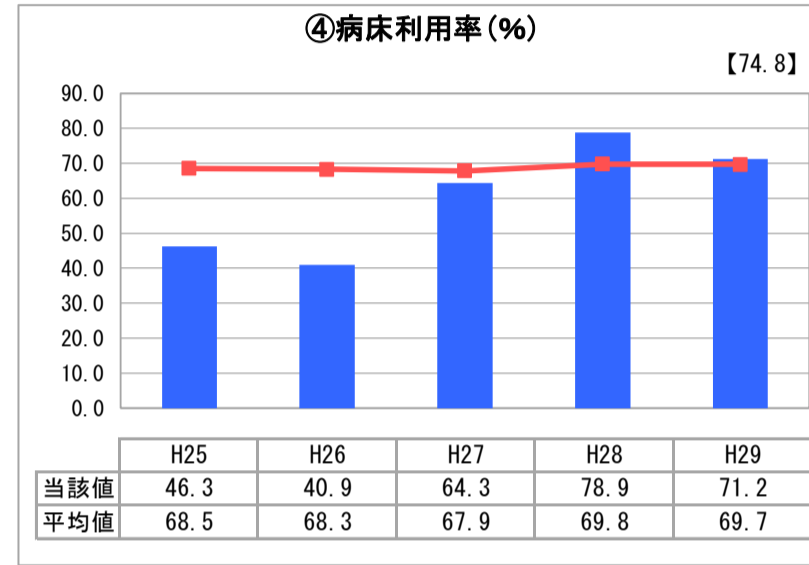
「経常損益」



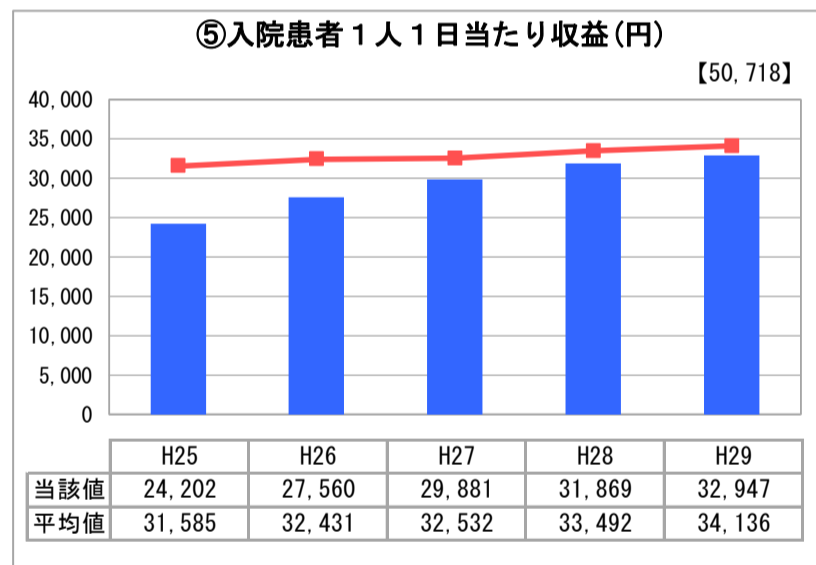
「医業損益」



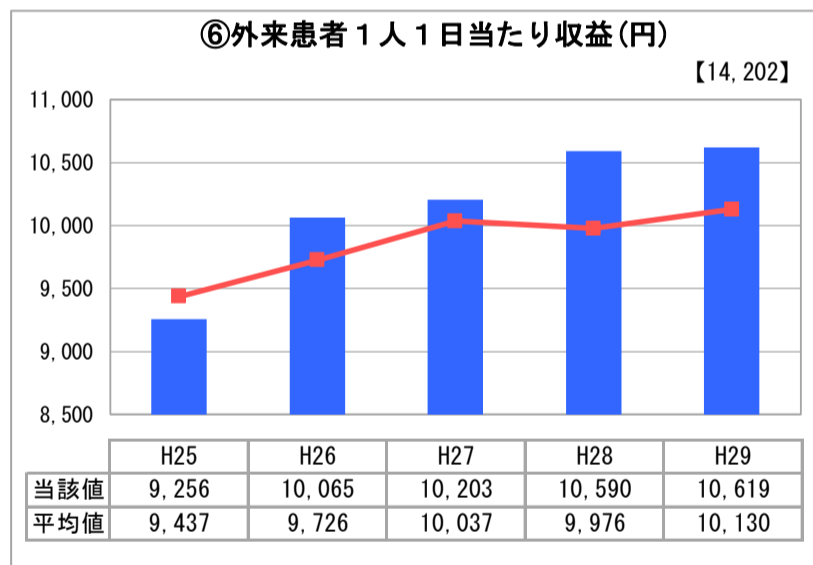
「累積欠損」



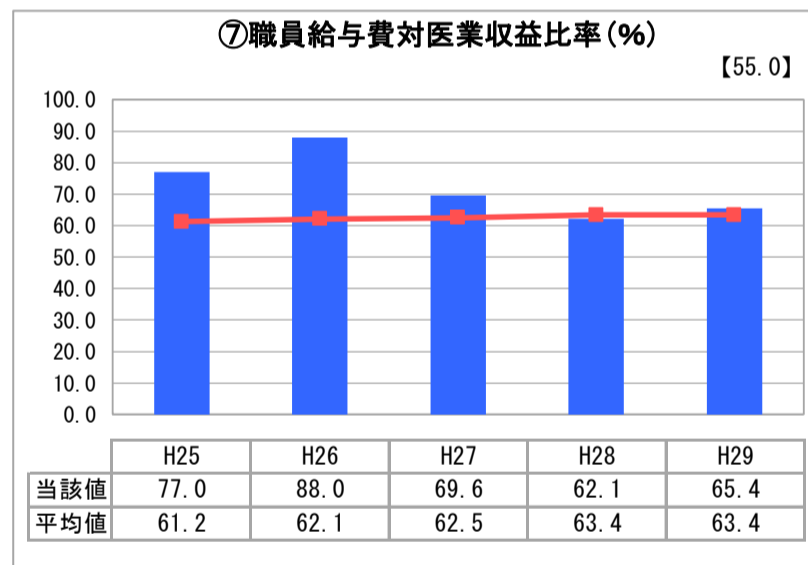
「施設の効率性」



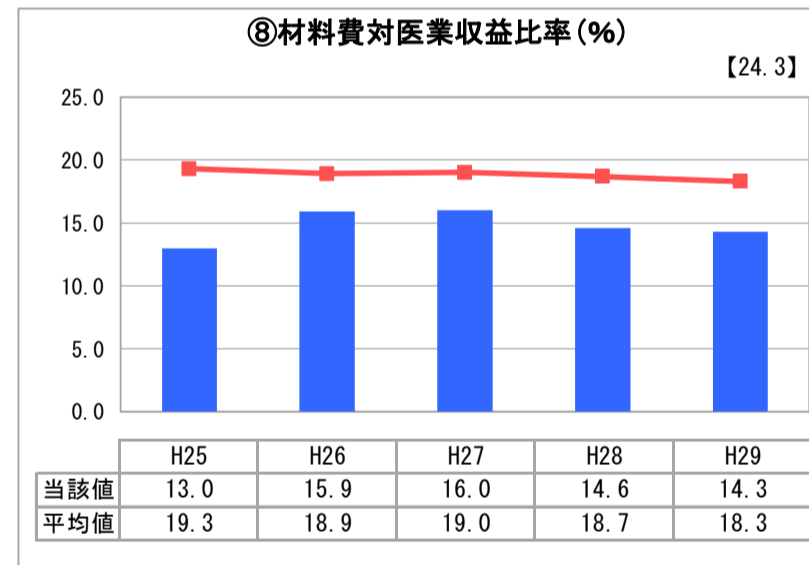
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

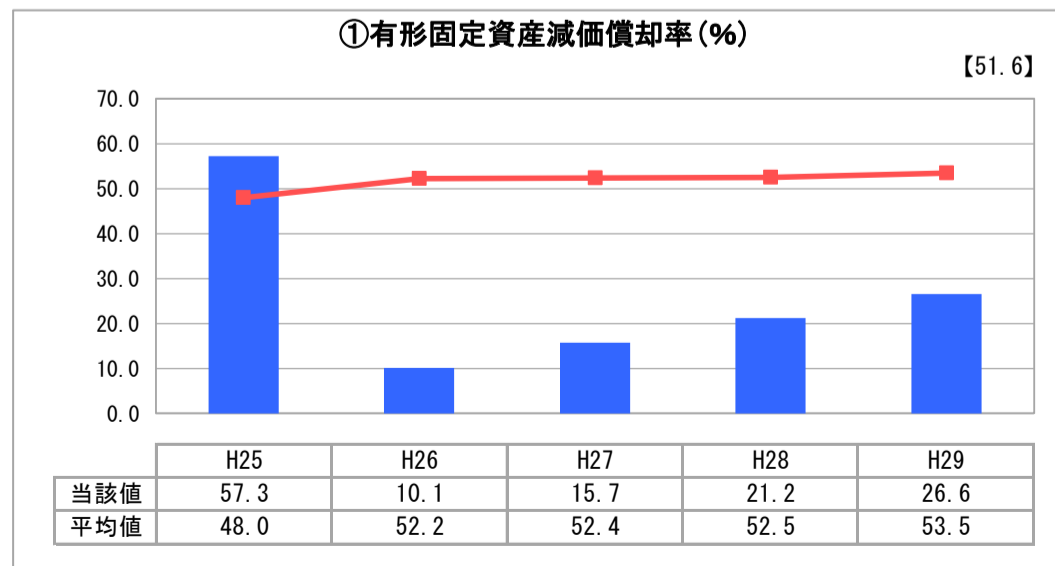


「費用の効率性①」

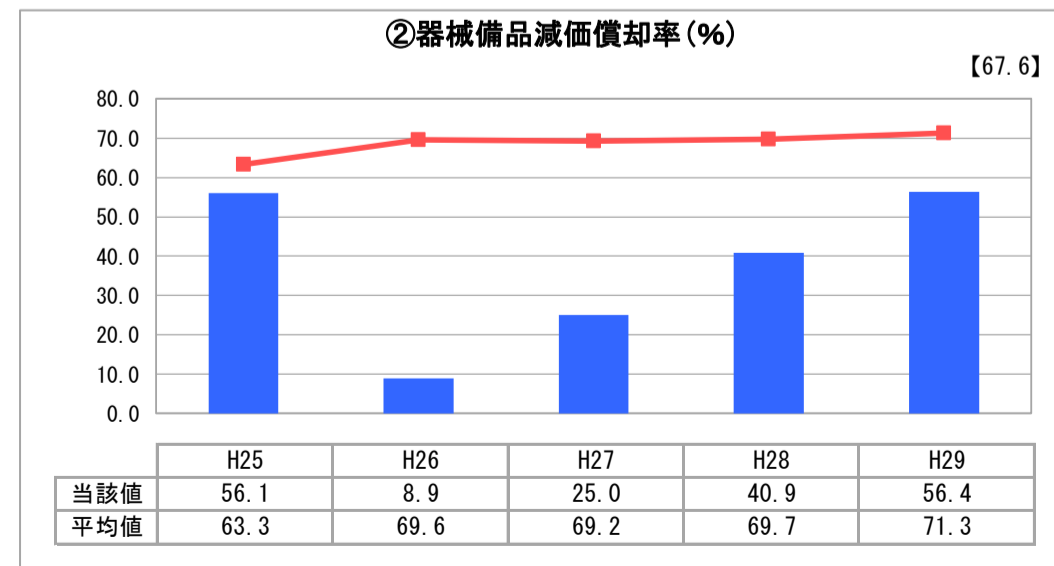


「費用の効率性②」

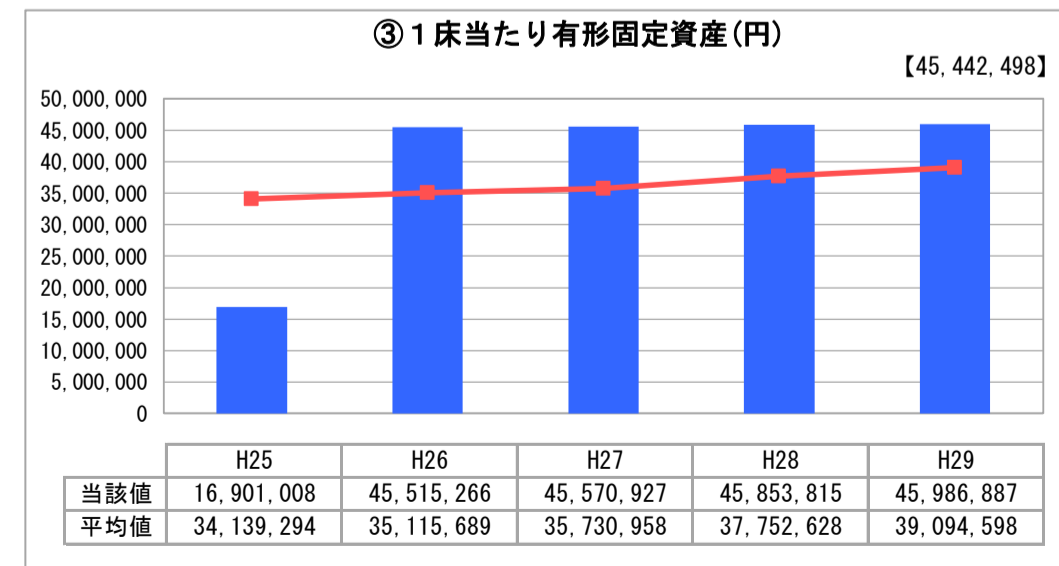
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

- ・救急医療等の不採算部門に係る医療の提供
- ・へき地等の民間医療機関の立地が困難な過疎地における一般医療の提供
- ・災害拠点病院として災害時に係る医療の提供
- ・基幹型研修病院と連携した初期研修医及び後期研修医（専門医研修）の受入れ体制の整備

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率及び②医業収支比率ともに類似団体平均を下回っており、平成28年度は熊本地震の影響により一時的に入院患者数が増加したが、平成29年度決算では、近隣病院の営業再開等により、医業収益が減少し、247百万円の純損失となった。
 ③累積欠損金比率は平成29年度決算値で100.5%と類似団体平均を下回っているが、医業収益の減及び純損失額の増により、前年度より16.2%増加している。
 ④病床利用率は、71.2%と類似団体平均を上回っており、平成28年度の熊本地震影響分を除くと移転開院後は、上昇傾向にある。⑤⑥入院・外来患者1人1日当たり収益は、移転開院後、上昇傾向にあります。
 ⑦職員給与費対医業収益比率は65.4%と類似団体平均値を2.0%上回っており、平成28年度より3.3%上昇しているが、これは入院患者数の減による医業収益の減少が主な要因である。
 ⑧材料費対医業収益比率は14.3%と類似団体平均値を大きく下回っている。

2. 老朽化の状況について

本医療センターは平成26年8月に移転新築により整備したことから、①有形固定資産減価償却率及び②機械備品減価償却率は類似団体平均を大きく下回っているが、医療機器・電子カルテ等が順次、更新時期を迎えていることから、今後も定期的な機器の更新が必要である。

全体総括

平成26年8月の移転開院時より、常勤医師（5名）の不足や移転新築に係る経費、退職引当金の増等により、純損失762百万円でスタートしたが、平成27年4月には常勤医師が10名となり、入院・外来ともに患者数は増加傾向にある。
 平成29年度決算では、熊本地震の影響により休業していた近隣病院の営業再開により、入院患者数が減少し、医業収益が52百万円減少したこと等により、純損失は247百万円となっている。
 今後も改革プランに基づき、常勤医師の確保と新しい診療科目の導入等により、医業収益の増収を図るとともに材料費等の経常経費の徹底的な削減を行い、経常黒字化を目指す。

※ 「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。